

第2次安平町総合計画に向けたワークショップ「町民まちづくり会議」
～みんなで考える安平町の将来像～

第1回目テーマ	10年後に安平町がどのようなまちになってほしいか考えましょう
---------	--------------------------------

平成28年6月8日（水）18:30～20:30
安平町追分公民館2階 中ホール

第1回目のワークショップのねらい

- 自己紹介を兼ね、安平町の印象について感想を述べ合うことで、立場・年齢などによって異なるイメージがあることを共有します。
- 将来も安平町で暮らす自分や家族の幸せな姿を想像し、「こんな安平町になって欲しい」という理想像を共有します。

第1回目のワークショップのプログラム

開会 (25分程度)	◇開会あいさつ（町長） ◇全体説明 ◇総合計画策定アドバイザーからの助言 ◇メンバー紹介
ワークショップ (①5分+②20分+③50分)	①ワークショップルールについて説明 ②自己紹介を兼ねて、 安平町に住んでみて（活動してみても）の感想をそれぞれメンバーから発言していただきます。 ③10年後に安平町がどのようなまちであるべきか、どのようなまちにするべきか、 「目指すべきまちの姿」をメンバーで考えていきます。
まとめ (20分程度)	◇ワークショップ内容のグループごと発表 ◇次回ワークショップ検討内容

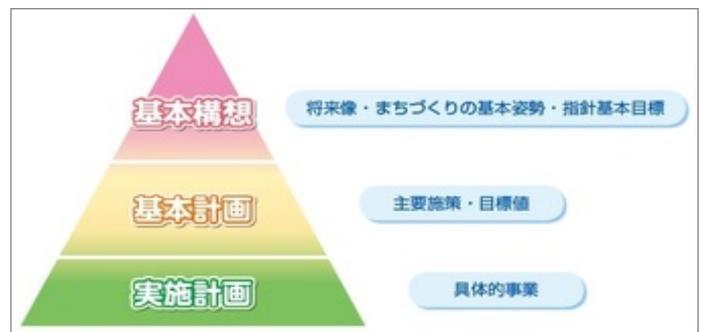
全体説明

総合計画とは

総合計画とは、安平町が進むべきまちづくりの方向を見定め、それに向かって取り組んでいくための指針であり、町政運営を進めるための基本となる最も重要な計画として平成26年12月施行の「安平町まちづくり基本条例」に策定を義務付けています。

総合計画の構成は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3構成

それぞれの役割は次のとおり。



基本構想（10年）

長期的な指針として、安平町の将来像や施策の大綱・方向性を示すものです。

基本計画（前期2年、中期4年、後期4年）

基本構想を実現するための中期的な指針です。

実施計画（事務事業計画）

基本計画を実現するための具体的な事業を集約ものです。

これまで行った町民参加の状況

- ①町民アンケート調査の実施 …… 平成27年9月7日～9月30日
- ②あびら夢・未来100人町民フォーラムの開催 …… 平成28年2月28日
- ③町内団体アンケートと団体ヒアリングの実施
 - アンケート …… 平成27年12月24日～翌年1月29日
 - ヒアリング …… 平成28年5月10日～6月6日

安平町を取り巻く状況

- ①人口減少と少子・高齢化が進展しています [日本全体が人口減少]
- ②社会経済・雇用状況が変化しています [低成長時代における成長戦略・購買力流出対策]
- ③住民ニーズ・価値観が多様化・高度化しています [ライフスタイル変化・田舎の良さ再認識]
- ④グローバル化と高度情報化が進んでいます [インバウンド・IT技術の進展]
- ⑤資源・エネルギー事情が変化しています [温暖化対策・再生可能エネルギー]
- ⑥町民参画・協働意識が拡大しています [新しい公共・まちづくり基本条例]
- ⑦安全・安心意識が拡大しています [東日本大震災、熊本地震・情報伝達手段の多様化]
- ⑧地方分権が更に進展しています [義務付け、枠付け見直し・説明責任・自治体経営概念]

総合計画策定アドバイザーからの助言

【総合計画策定アドバイザー略歴】

北海学園大学経営学部教授（大学院経営学研究科教授併任） 菅原 浩信 様

略 歴 等	昭和61年	名古屋大学経済学部経済学科卒業
		東洋信託銀行株式会社勤務
	平成 6年	北海道大学大学院法学研究科修士課程修了
		北海道開発コンサルタント株式会社勤務 (平成13年～平成16年 財団法人北海道地域総合振興機構出向)
	平成 9年	小樽商科大学大学院商学研究科修士課程修了
	平成13年	北海道大学大学院経済学研究科経営学専攻博士後期課程修了
	平成16年	北海学園大学経営学部勤務
	平成23年	現職
	平成21年～ 平成22年～	北海道 地域づくりアドバイザー 財団法人中小企業基盤整備機構 中心市街地活性化アドバイザー・ 商業活性化アドバイザー（現：株式会社全国商店街支援センター 商店街よろず相談アドバイザー）
	平成26年～ 平成27年～	公益社団法人北海道地域活動振興協会 理事 第2次安平町総合計画策定アドバイザー

ほか多数

ワークショップのルール

1. 他の人の意見を尊重する（意見を否定しない）

- ・本日の話し合いに正解はありません。多様な意見に耳を傾けましょう。
- ・考えの方向性が違うときは、対案を示しましょう。
- ・様々な年齢・立場の方が参加していますが、皆さん町民として対等な参加者です。

2. 他の人の意見への「相乗り歓迎」です

- ・意見に賛同するときは、「私もそう思う」と意思表示をしましょう。
- ・ある意見に「こうするともっと良いと思う」と意見を追加することも構いません。

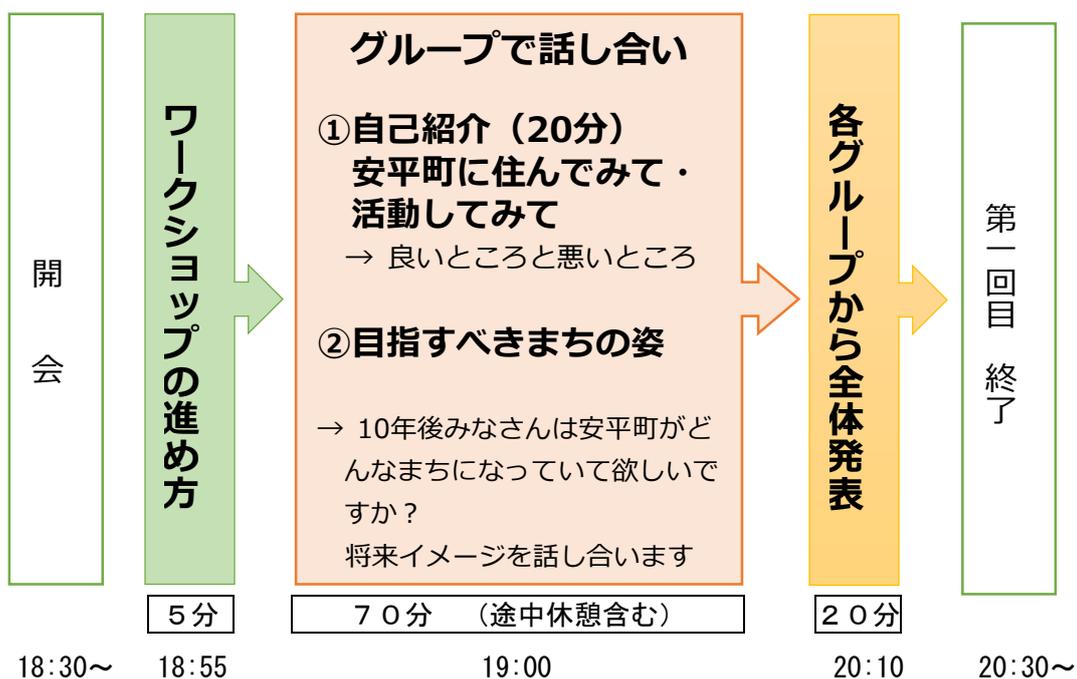
3. 発言は1回 30秒以内で

- ・できるだけたくさんの人に発言する機会を設けたいので、発言は長くなり過ぎないようにご協力ください。話の輪を回していきましょう。

4. 意見は文字として残しましょう

- ・本日出された意見は、次回までにまとめていきます。文字として残っていないと引き継がれませんので、意見はふせんに書き留めましょう。
- ・町職員が皆さんのスピードについていけず、発言を書き留められないときは、参加者の皆さんも書きとめる作業を手伝ってください。

【グループワークタイムスケジュール】



【メモ】

それぞれが発言された内容をメモして帰りましょう。

第2回までに考えてきていただきたいこと

(次回は6/28(火) 18:30～ 早来町民センター2F 中集会室)

次回テーマ 「目指すべきまちの姿」の実現に向けた安平町の「強み」を考えましょう。



次回に向けて安平町独自の「強み」を考えていただきます

「強み」⇒「活用できるもの」「自慢」「希望」「宝」

本日話し合いをした「どんなまちになりたいか・したいか」⇒ 目指すべきまちの姿

ex) 公共交通が充実した利便の良いまち ⇒ JR便数が増便できる? …… 難しい
二セコ・富良野のような観光のまち ⇒ ホテルを建設する? …… 難しい

都会との実力の差を安平町の実力で埋めることは難しい ⇒安平町独自のまちづくり

地域にある可能性のある「もの」を使って、目指すべきまちの姿を実現する



他のまちに負けない、他のまちにない安平町の「自慢」「希望」「宝」⇒『強み』を活用



安平町独自の「強み」を活用した安平町独自の10年後の将来像の設定を目指します

そこで皆さまには、町民アンケートや100人町民フォーラムを通じて町民から集めた『「強み」となりえる要素』を参考に、次の観点で「安平町独自の強み」を考えていただきます。(ひとり5個以上)

(1) そののどういうところが強みなのか、なぜそれが強みなのか

例) 鶴の湯温泉、アサヒメロン、チーズ、風景、安全・平和な町、馬…

(2) 他市町村と比べて優れているところはどんなところか(厚真町・苫小牧市・千歳市などと比べ)

例) 都市に近い利便性、空港に近い、鹿公園、おいしい水、きれいな星空、多くの観光資源…

次の表に、皆様が考えた「安平町独自の強み」をご記入いただき、第2回目の会議に持参してください。

	私が考える安平町独自の強み	◇そのどういうところが強みだと感じますか、 ◇なぜそれが強みなのですか	◇他市町村と比べて優れているところはどんなところですか？ (厚真町・苫小牧市・千歳市などと比較)
1			
2			
3			
4			
5			

例えば……

追分地区のすばらしい丘陵景色に広がる菜の花畑は、現時点では「隠れた菜の花名所」として知られているようですが、インターネットやSNSなどの口コミで徐々に有名となりつつあります。観光面だけではなく、既に町内事業者によって「なたね油」「ハチミツ」など商品化がなされており、6次産業化においても大きな可能性を秘めています。

「強みの要素」について、「なぜ」「どうして」を自問自答していくことにより安平町独自の「強み」となります。次の区分に分けて考えてみましょう

- ①立地条件に関するもの ②生活環境に関するもの ③インフラ整備等に関するもの
- ④地域の特産品などに関するもの ⑤地域産業に関するもの ⑥観光資源に関するもの
- ⑦福祉に関するもの ⑧子育て支援・教育に関するもの ⑨人(町民)・コミュニティに関するもの
- ⑩行政運営に関するもの

町民アンケートや100人町民フォーラムを通じて町民から集めた『「安平町の強み」となりえる要素』

＜立地条件に関するもの＞

高速IC、空港、港、JR（特急が停まる）が近く交通アクセスが良い 都市に近い利便性 首都圏への利便性 交通の利便性（空港・特急停車）
利便性（道内アクセスのよさ） 地理的条件が良い 千歳市、札幌市、苫小牧市が通勤圏内で気軽に都会へ行ける・通える（帰省含む）

＜生活環境に関するもの＞

空港に近く豊かな自然（食べ物もおいしい） 穏やか・静か・安全な環境 農業・馬産地という身近に自然を体感できる環境 牧歌的な風景・自然環境
綺麗な星空 都市に近いのに災害が少ない安全・平和な町 ララタウンに電線がない 比較的雪が少なく寒さも厳しすぎない 治安が良い
静かで寝るとき過ごしやすい・スローライフが楽しめる 川が町内を縦に流れている 町が狭いので町内を利用しやすい 土地が安い
町外から移住してくれる人が多い デマンドバスが走っている

＜インフラ整備等に関するもの＞

田舎なので雪かきが比較的キレイ（細かく除雪してくれる） 道路が走りやすい

＜地域の特産品などに関するもの＞

アサヒメロン チーズ（カマンベールソフトを含む） 食べ物が美味しい（チーズ・野菜・果物等） 雪だるま 菜の花 おいしい水 アスパラ・卵・野菜など
ジンギスカンがおいしい（追分） 米・長いも・豆類・メロンがおいしい 給食に地元野菜が出る

＜地域産業に関するもの＞

盛んな農業・畜産業（ブランド） 競走馬の名産地であることは他には無い強みがあり世界にも通ずるサラブレッド・競走馬・ノーザンファーム・名馬）
太陽光発電が日本最大級 生産者から消費者までの距離が近い 就農しやすい場所 新鮮かつ豊富な農産物が農家から直接買える 豊富な森林資源
有機農業の教育機会がある（農家同士） 有機農法をしている農家がある

<観光資源に関するもの>

景観 景観の良さ（牧場、放牧、菜の花CMや映画等で使用された） 追分地区のすばらしい丘陵景色 風景（牧場・農村・夕日等）

施設 鹿公園（キャンプ場は駅に近く、パークゴルフ場もある、日本最古の保安林） スポーツ施設・学べる施設・アウトドア環境がある

安平山がありスキーができ、集客が見込める（初心者・アジア圏も可） みずほダムがある、D-51（動くSL・乗れる・保存状態がとても良い）、

ゴルフ場も多い（空港や札幌から近く、ゴルフ場への人の出入りが多い） 鶴の湯温泉 道内有数の共進会場

<福祉に関するもの>

お年寄りが住みやすい 福祉に力を入れている（グループホームなど） 子どもが生まれる前の支援がある（不妊治療女性拡大等）

<子育て支援・教育に関するもの>

子育て支援（保育・医療・特別支援・ALT等）が充実している 保育施設が充実（待機児童ゼロ） 0歳児から入園できる 幼児教育の新しい形が始まる

保育園から高校まである 追分旭保育園の送迎 進学先の選択肢が多い SLや馬鉄の様な歴史的遺産がある 教育に熱心

スポーツ（合宿所など）や文化に対する協力体制がある 野球場、リンク（屋内外）、温水プールなど施設が充実

<人（町民）・コミュニティに関するもの>

コミュニケーション 都会にはない人情（挨拶・高齢者にやさしい） 人があたたかく、優しいので困ったときに助け合える 都会に比べ隣人交流がある

町民の繋がりが深く、仕事でも関わられる 直売所で新鮮な野菜購入や人との繋がりがあがる 子ども達のあいさつが素晴らしい

人材 お年寄りが多く、高齢者の経験値（山菜など専門的な知識がある） すごい人が年代問わず結構いる 鉄道保存会が楽しい

住民主体・協働 盆踊りがたくさんある（交流のきっかけ） 地域みんなで盛り上げられるイベント（うまか祭りの花火） 地域の繋がりがあがる

様々なサークル活動で住民の生活の満足度が高い 自治会・老人会など活動が盛んであり様々な集いの場がある みんなで考える町

<行政運営に関するもの>

小さい町なので行政の目が個人に届きやすく見守られている 役場職員の顔が見える（距離が近い）